2019年度 第1回 介護医療連携推進会議

●日　時　2019年 8月22日(木) 10:00～11:00
●場　所　甲州ケア・ホーム 会議室
●参加者　10名
地域住民代表:社協役員、区長
笛 吹 市　:長寿介護課職員、地域包括支援センター職員
施設側役職員:部門長、課長、事業責任者、事務部長、地域医療医師、事務局

1.法人事務部長挨拶

本日、施設長が所要によりやむなく欠席となり申し訳ありません。皆様にはお忙しいところ集まりいただきありがとうございます。この会議では、事業所の状況やアンケート結果などを報告させていただきます。皆様の一層の理解を深めていただくとともに運営に対して忌憚のないご意見をいただければ幸いです。よろしくお願い致します。

2.事業概況について

1) 現在の利用状況について　資料のとおり説明された。
2) 平成30年度サービス提供に対する評価について
前回の評価状況を踏まえ、次の3項目が重点的に説明された。
① 項目14　なるべくリハビリスタッフに関わってもらい評価目的の訪問を実施してもらい、起こりうるリスクとその対策を予測しながら計画を作成することができるようになった。 → 評価「ほぼできている」
② 項目25　民生委員やご近所の方からの支援、サービス担当者会議に民政委員も参画してもらって、地域の力を活用させてもらう機会が増えてきた。 → 評価「ほぼできている」
③ 項目32　ネットワークを活用した関係者間での問題認識の共有や問題提起については、県内のサービス事業者間の連絡体制がとれていない → 評価「できていないことが多い」
3) 当サービスに対するケアマネ向けアンケートの結果について
アンケートの目的や設問に対する回答の状況が説明された。

3. 質疑応答や意見交換の状況

1). 都留市や甲府市の同業他事業所の状況と比較した場合いかがか?
●都留市は狭小な地形のため移動が効率的に行える。また、リハスタッフの関与に苦慮されているようだが、当事業所の場合は、訪問介護事業所にリハスタッフがいるのですぐに相談に乗ってもらえる。都留では単独事業所なので病院のリハスタッフに協力を要請して同行してもらうなど、工夫しているとのこと。
●甲府市では、5地区に分割してこのサービスを運営しており、エリアを限定することから移動は容易。またサ高住と特養と定期巡回が一緒の運営になっているところでは効率的な運用が可能である。甲府共立では、住宅が密集しており移動が容易に行えるメリットがある。

2). 近隣市同市で共同することはできないか?
●地域密着型サービスなのでできない。

3). 金銭面(利用料金等)での影響は?
●定期巡回は割高ではあるが、施設に入所するよりは安い金額である。使うご家族によって、高いと感じる方もいるとは思う。

4). ケアマネ向けアンケートについて
(事業所から)
事前に笛吹市の飯室さんにも相談させていただきながらアンケートを実施した。結果、このサービス利用につなげたのはほとんど甲州居宅と共立系居宅となっている。
他の事業所に対して、事業の在り方を知ってもらって使ってもらうにはどうしたら良いか。説明会を計画しても「希望しない」とする方もいるのでは不安である。市内唯一の事業所として継続したいのはやまやまだが、自力での事業運営は限界があるので、当然努力もするが同時に市の協力を仰ぎたい。
●(包括から)

包括の介護支援専門員の質問を受け付ける中では、「ショートでなければ」、「施設でなければ」、という相談に対して定期巡回サービスを提案したケースがあり、実際に利用につながったこともあったと思われる。
実際にプランに位置付ける際、第一候補にしなかったケアマネもいると思うが、有効なサービスは何だろうという時に引き続き定期巡回の案内も続けていく。また、訪問介護単独サービスしかイメージできないケアマネには、周知する機会をもっていただきながら続ける取組をして欲しい。
月の利用実績が十数名ある中で、多くの「利用して良かった」という感想、「短くても成果が上がった」事例を市でも紹介していくので、施設でもどんどん紹介して欲しい。
●（事業所から）
市には、いずれ具体的な相談をさせていただきたい。
今年度は介護福祉士を含めた常勤職員4名体制に強化したので、依頼に対してはなるべく引き受けて行く。資料13頁のとおり、ケアマネから「対象者がいない」との回答があり違和感を覚えたが、市でもCMの視野を広げるよう働きかけているようなので、今後もよろしくお願いしたい。

5）サービス自己評価については、初見では難しいので、市からは後日ご意見をもらうこととした。

6）．この事業は掘り起こせば需要はあるのか？
●（在宅診療の現場から）
患者の引き受けを相談することがある。在宅の現場を知っている医師なら需要を感じられるだろうが、一般の医師では認識するのは難しい。潜在的な需要をケアマネがうまくつないでくれると良いと思う。使った人には大変喜ばれるが、一方で事業所経営は難しいので、「有意義な事業であるから頑張れ」でなく、市が委託する事業に対してケアマネに向けて介護事業所連絡会などでアピールし、ケアマネの理解を深めてもらいたい。
●（市より）
介護支援専門員が集まる場所で説明をしてもらう機会は持った。広報誌にも掲載した。市内唯一の指定事業所なので、今後も知ってもらう機会を作ることは検討可能である。

7）ケアマネへの説明について
●ケアマネは勉強不足なのだと思う。（例：訪問介護・訪問看護との併用ができない という誤解）
●事業所では説明会を実施する予定。ケアマネに対してはもちろん、地域の方にも伝えたいので説明する機会があれば有りがたい。
●（市より）
ケアマネの知識不足に関して、市では「ケアプラン点検」事業を行うことになっているので、このサービスの説明の場としてもらっても良いと思う。
●（事業所から）
成功体験があるとまた使おうと思う。使ってみて良さがわかる。笛吹中央病院の退院支援室に説明にいったが、積極的に足を運ぶのでケアマネも一緒に相談に乗りたいと思う。
地道に顔が見える関係作りを続けていきたい。まずは説明会を準備していきたい。
●定期巡回と訪問看護スタッフもいるがその中に 緩和ケアの認定看護師がいるので、その点もアピールしていきたい。

4．終わりの言葉　在宅支援部長より

数々の貴重なご意見をいただきありがとうございました。私たちが改善していかねばならないこと、地域の方・市の方と連携していかなくてはならないことが再確認できました。今後もこの事業が発展し、地域の方が安心して在宅で暮らせるように貢献していきたいので、よろしくお願い致します。